



大学ICT推進協議会2015年度年次大会 出展者セミナー

大学向け安否確認システムの導入効果について～大学導入事例～

【セッション概要】

安否確認システムは、20年前の大震災の時から民間企業への導入は進んできました。しかし、大学へは、まだまだ、普及しているとは言えません。その理由のひとつとして、回答率の低さがありました。連絡手段としては、メールや携帯電話などがありますが、学生はメールアドレスをよく変更します。その為、緊急時に連絡先が登録されておらず、連絡がつかないという事がありました。他の大学では、災害時に自分から登録するようにされている大学もあります。この場合、さらに回答率が低い状態です。学生に何度も案内を繰り返しても、自発的にはほとんど登録をしてくれません。

最も重要な点は、学生や教職員の意識改革と技術革新です。我々は、システムに確実に連絡先を登録するにはどうすれば良いか？ どのような方法での連絡が最も効果があるのかを考え、実践してきました。また、メールや電話以外には、独自に専用のスマホアプリを開発致しました。これで、大学にメールアドレスを教えなくても連絡が出来るようになりました。さらに、良い事は、キャリアのメールサーバーや電話交換機の影響を受けないので、輻輳に関係なく、連絡をする事ができるようになった事です。それでも、大災害の場合、何が利用できるか判りません。そのため、当社のシステムは、学生、教職員一人につき、10個の連絡先が登録できるようにしました。このような工夫により、実際に大学への導入では、確実に回答率を上げています。今回のセミナーでは、大学への導入事例をもとに、導入効果と回答率アップの成果について具体的にご説明します。

対応業務

